

岡山聾学校で安全に楽しみながら 礼法と基本を重視した空手道授業を実施

令和7年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（授業観察）



令和7年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（主催＝日本武道館・全日本空手道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）が12月8日、研究者5名、事務局3名が出席して岡山県立岡山聾学校（岡山県岡山市）で行われ、同校中等部および高等部20名に対して空手道授業を行い、研究協議を実施した。

授業では太田熊野研究者を中心として、11月に行われた東京2025デフリンピック男子個人形優勝の森健司研究者等が生徒をサポート。太田研究者のかけ声を同校教諭が手話に訳しながら、基本動作の確認をしたのちにグループごとに分かれて形の練習を行った。生徒達は安全に楽しみながら取り組み、大きなかけ声や互いに教えあう様子も見受けられた。授業の最後には全員で基本形一を披露。わずか2時間の授業にもかかわらず、その完成度は高く会場は大きな拍手で包まれた。

◇出席者一覧

研究者：太田 熊野（富山県立しらとり支援学校・教諭）

小山 正辰（全日本空手道連盟 学校武道推進委員会 委員長）

森 健司（立命館大学 空手道部 3回生）

野中 史子（全日本空手道連盟 学校武道推進委員会 副委員長、高知市立旭中学校・主幹教諭）

山本 史子（佐賀県立中原特別支援学校・教諭）

事務局：日下 修次（全日本空手道連盟 学校武道推進委員会 相談役）

高橋 昇（全日本空手道連盟 学校武道推進委員会 委員）

田邊 礼子（全日本空手道連盟 指導普及課）

授業の様子



礼法、左座右起を説明



基本動作の確認



森研究者による、
決勝を制した形「アーナン」



床に貼った2色のテープで足の動きを
把握する



グループごとに練習



全員で基本形一を披露

研究協議



現場への理解を深めるためのグループ協議



山本研究者の実践報告